

平成18年度

県内遺跡発掘調査概要報告書

- 宮崎市・県営経営体育成基盤整備事業（跡江地区）
[跡江地区遺跡]
- 宮崎市・宮崎西環状線（北川内工区）地方道路交付金事業
[山ノ城跡]
- 都城市・一般国道10号都城道路
[中原第3遺跡隣接地、平峰遺跡]
- 串間市・県営農地保全整備事業（第3秋山地区）
[箒ノ下遺跡]
- えびの市・県営一般農道整備事業（下大河平4期地区）
[畝倉第1遺跡・愛染院遺跡]
- 高鍋町・一般県道高鍋美々津線（坂本工区）
[持田遺跡隣接地]
- 川南町・県営農地保全整備事業（上野田原地区）
[野田原遺跡]
- 日向市・国道327号（日向バイパス）地域連携推進事業
[秋留遺跡隣接地]
- 高千穂町・主要地方道竹田五ヶ瀬線（五ヶ所工区）

2007.3

宮崎県教育委員会

平成18年度 県内遺跡発掘調査概要報告書

- 宮崎市・県営経営体育成基盤整備事業（跡江地区）
[跡江地区遺跡]
- 宮崎市・宮崎西環状線（北川内工区）地方道路交付金事業
[山ノ城跡]
- 都城市・一般国道10号都城道路
[中原第3遺跡隣接地、平峰遺跡]
- 串間市・県営農地保全整備事業（第3秋山地区）
[箒ノ下遺跡]
- えびの市・県営一般農道整備事業（下大河平4期地区）
[畝倉第1遺跡・愛染院遺跡]
- 高鍋町・一般県道高鍋美々津線（坂本工区）
[持田遺跡隣接地]
- 川南町・県営農地保全整備事業（上野田原地区）
[野田原遺跡]
- 日向市・国道327号（日向バイパス）地域連携推進事業
[秋留遺跡隣接地]
- 高千穂町・主要地方道竹田五ヶ瀬線（五ヶ所工区）

2007.3

宮崎県教育委員会

例 言

1. 本書は、宮崎県教育委員会が平成18年度に国庫補助金を受けて実施した、県内遺跡発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は文化財課主査 吉本正典，同主査 飯田博之，同主事 柳田晴子、埋蔵文化財センター主査 和田理啓が担当した。調査にあたっては、国土交通省九州地方整備局宮崎河川国道事務所，農林水産省九州農政局尾鈴農業水利事業所，宮崎県中部農林振興局・北諸県農林振興局，同農政部局，宮崎土木事務所・串間土木事務所・都城土木事務所・小林土木事務所・高鍋土木事務所・日向土木事務所・西臼杵支庁土木課及び関係市町村教育委員会の協力を得た。
3. 本書の執筆は吉本・飯田・柳田が担当した。

目 次

1. はじめに	1
2. 県営経営体育成基盤整備事業（跡江地区）〔跡江地区遺跡〕	2
3. 宮崎西環状線（北川内工区）地方道路交付金事業〔山ノ城跡〕	7
4. 一般国道10号都城道路〔中原第3遺跡隣接地、平峰遺跡〕	10
5. 県営農地保全整備事業（第3秋山地区）〔筭ノ下遺跡〕	14
6. 県営一般農道整備事業（下大河平4期地区）〔畝倉第1遺跡・愛染院遺跡〕	16
7. 一般県道高鍋美々津線（坂本工区）地方道路交付金事業〔持田遺跡隣接地〕	19
8. 県営農地保全整備事業（上野田原地区）〔野田原遺跡隣接地〕	21
9. 国道327号（日向バイパス）地域連携推進事業〔秋留遺跡隣接地〕	25
10. 主要地方道竹田五ヶ瀬線（五ヶ所工区）地方特定道路整備事業	27

報告書抄録

1. はじめに

宮崎県内では、各地で数多くの開発事業が実施されている。

これに対し、県教育庁文化財課では埋蔵文化財の保護の観点から、各農林振興局や土木事務所等の事業実施部局との調整を行い、その一環として、平成18年度及び19年度以降の事業対象地を対象とする試掘・確認調査を行っている。（第1表参照）

本書では、それらのうち9件の調査結果について概要を報告する。

No.	事業地区名	遺跡名・所在地	調査期間	調査担当
1	一般国道10号花見改良事業	池内遺跡 宮崎市高岡町	平成18年4月18日 平成18年10月19日～平成18年10月30日	飯田博之
2	一般国道10号都城道路	平峰遺跡他 都城市高木町～五十市町	平成18年5月30日 平成18年10月25日～平成18年11月2日	飯田博之
3	京町小林線(南西方工区) 地方道路交付金事業	立野遺跡 小林市大字南西方字立野	平成18年6月9日	飯田博之
4	都城東環状線(今町工区) 道路改築事業	今町東原遺跡 都城市今町	平成18年6月13日～平成18年6月14日	飯田博之
5	国営尾鈴農業水利事業 銀座第1ファームポンド工事	明野遺跡 川南町大字川南	平成18年7月4日～平成18年7月10日	柳田晴子
6	県営農地保全整備事業 第3秋山地区	箒ノ下遺跡 串間市大字秋山	平成18年7月26日～平成18年7月27日	飯田博之
7	主要地方道竹田五ヶ瀬線(五ヶ所工区) 地方特定道路整備事業	高千穂町大字五ヶ所	平成18年8月2日	柳田晴子
8	県営一般農道整備事業 下大河平4期地区	畝倉第1遺跡・愛染院遺跡 えびの市大字大河平	平成18年8月21日～平成18年8月29日	飯田博之
9	地方道路交付金事業(交安) 霧島公園小林線自歩道設置	八反遺跡群 小林市夷守	平成18年8月28日	飯田博之
10	県営経営体育成基盤整備事業 跡江地区	跡江地区遺跡 宮崎市大字跡江	平成18年8月30日～平成18年9月4日	吉本正典
11	宮崎西環状線(北川内工区) 地方道路交付金事業	山ノ城跡 宮崎市北川内	平成18年9月6日	吉本正典
12	宮崎市地方裁判所増築計画	旭2丁目遺跡 宮崎市旭町	平成18年10月31日	吉本正典
13	国道327号(日向バイパス) 地域連携推進事業	日向市大字財光寺	平成18年11月15日～平成18年11月16日	和田理啓
14	一般県道高鍋美々津線(坂本工区) 地方道路交付金事業	高鍋町大字持田字東光寺	平成18年12月4日	和田理啓
15	県営農地保全整備事業 弘川1期地区	中床丸・大年・雄児石・梅北針谷遺跡 都城市梅北町	平成18年12月18日～平成18年12月19日 平成19年1月29日～平成19年1月30日	飯田博之
16	県営農地保全整備事業 上野田原地区	川南町大字川南	平成18年12月27日～平成18年12月28日	吉本正典
17	県営経営体育成基盤整備事業 江田山崎地区	宮崎市阿波岐原町	平成19年2月1日～平成19年2月2日	吉本正典
18	一般国道10号 延岡道路	延岡市須佐町	平成19年3月1日	和田理啓
19	県営畑地帯総合整備事業弘川第1地区	都城市梅北町	平成19年2月9日 平成19年3月1日	飯田博之

表1 平成18年度試掘・確認調査一覧

2. 県営経営体育成基盤整備事業 跡江地区（跡江地区遺跡）

- 1 調査期間 平成18年8月30日(水)・31日(木)・9月4日(金)
- 2 調査地点 宮崎市大字跡江字深田ほか
- 3 調査者 教育庁文化財課 吉本正典
- 4 調査面積 80㎡

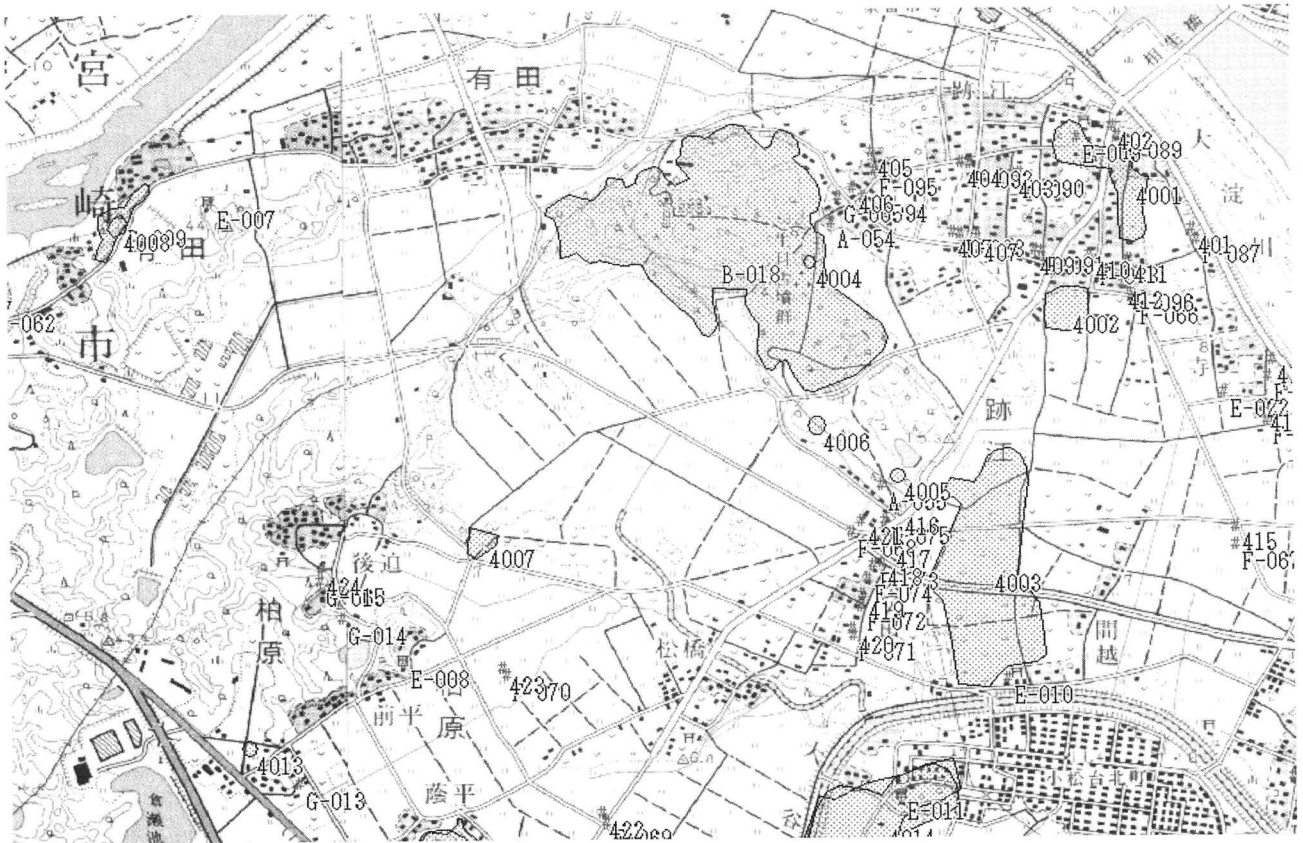


図1 跡江地区遺跡位置図

5 調査の結果

当地区では、平成16・17年度に確認調査を実施し、平成17年度に面工事により影響を受ける範囲について本調査を実施している。その結果、高原スコリア（霧島山起源の火山灰層）を含む砂質層の下位に、古代以前の可能性のある水田耕作土層が存在することが判明している。本年度については工事対象地区内に2×3mを標準とするトレンチを6箇所設定し、人力による掘り下げ、精査を行った。

調査対象地区は、道路をはさんで大きく2区に分けられる。西側をA区、東側をB区と仮称する(図2)。

A区は1～4トレンチの4箇所を確認を行った。その結果、現水田耕作土の下位の火山灰層(Ⅲ層)で遺物が出土しており、特に西側の1・2トレンチからの出土が多いという傾向が認められた。遺物は中世の磁器、近世の陶磁器が主であるが、1点のみ古代の須恵器の破片(杯蓋)も見られた。また、その下位の黒色土層(Ⅳ層)の上面で、足跡か攪拌の痕跡と考えられる小さなシミ状の落ち込みが捉えられている。

このA区はわずかながら標高が高く、平成11年度に実施された隣接地点の発掘調査(井尻遺跡)においても、古代の竪穴遺構が検出されている。調査地点の西側(丘陵側)に居住関連等の遺構が存在する可能性がある。

B区は5・6トレンチの2箇所について掘り下げを行った。ここでもⅢ層が見られたが、出土遺物はごく少量であった。このB区についても、隣接地点で発掘調査が行われ(沖ノ田遺跡)、2期にわたる水田が検出されている。今回の確認調査では面積の制約から畦畔等を捉えることができなかったが、B区でも水田遺構が展開していると判断される。

このように、対象地のA区、B区とも古代以降の水田遺構の存在が想定され、特にA区については、一定量の遺物が出土し、さらに高位の地点(未調査の西側一帯)では水田遺構に加えて居住関連の遺構が検出される可能性もある。



図2 跡江地区遺跡トレンチ配置図

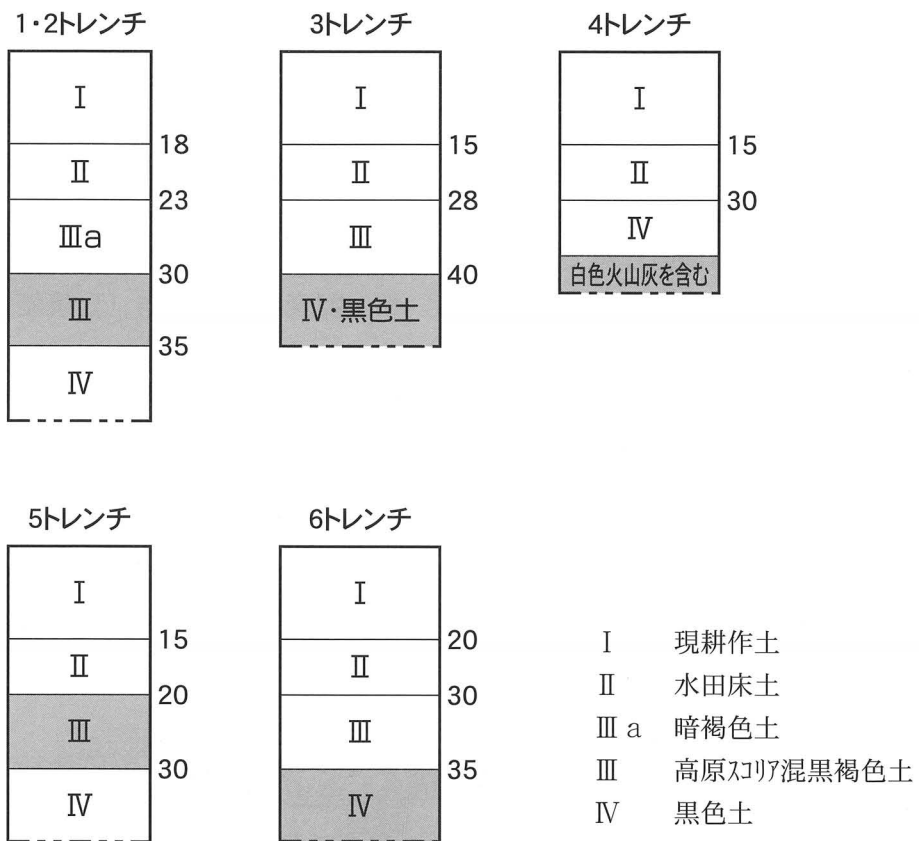


図3 跡江地区遺跡基本層序模式図

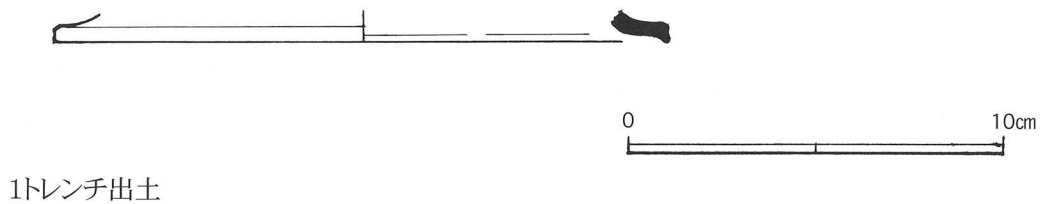
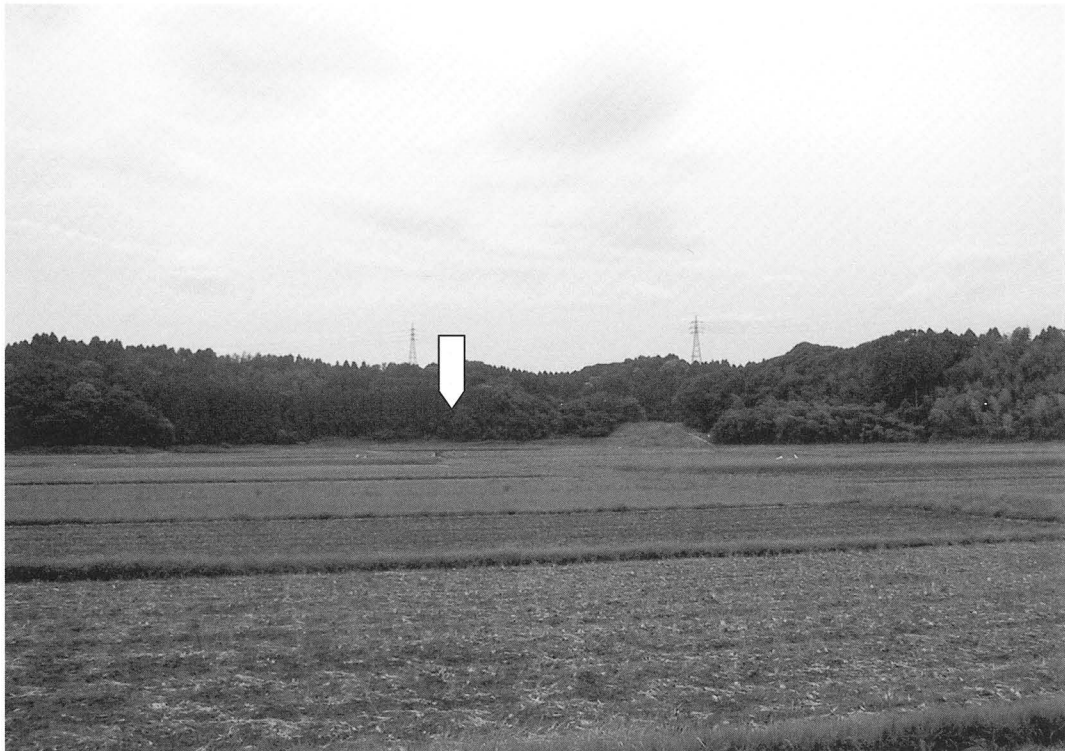


図4 跡江地区遺跡出土遺物(1/2)

写真1



調査対象地 A地区全景



1 トレンチ 完掘状況

写真2



2 トレンチ 完掘状況



2 トレンチ 層序

3. 宮崎西環状線（北川内工区）地方道路交付金事業（山ノ城跡）

- 1 調査期間 平成18年9月6日（水）
- 2 調査地点 宮崎市北川内町字山城
- 3 調査者 教育庁文化財課 吉本正典
- 4 調査面積 20m²

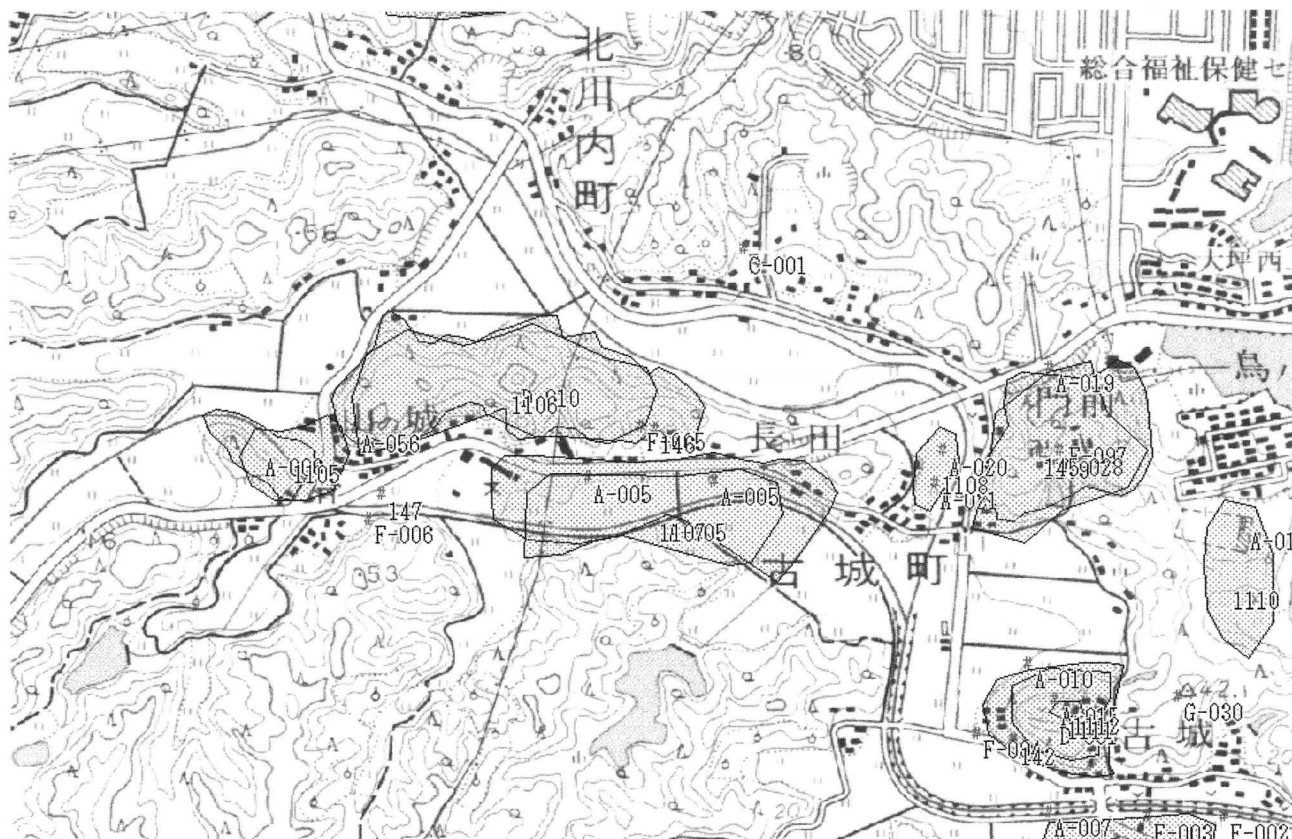


図5：山ノ城跡位置図

5 調査の結果

谷部に設置したトレンチの人力による掘り下げと、城郭構造を知るため尾根部の踏査を行った。

その結果、谷部については、山からの崩落土が堆積している状態で、遺物の出土は皆無であった。一方、尾根部では明瞭な堀切と目されるところもあり、曲輪状の平坦地も見られるなど、城郭としての構造を確認することができた。

当地では南北朝期に伊東氏の一族の山ノ城氏が城を築いたとされており、工事対象地はこの城郭の一部が含まれる可能性が大きい。対象地の南側には主郭と見られる平坦地がある。

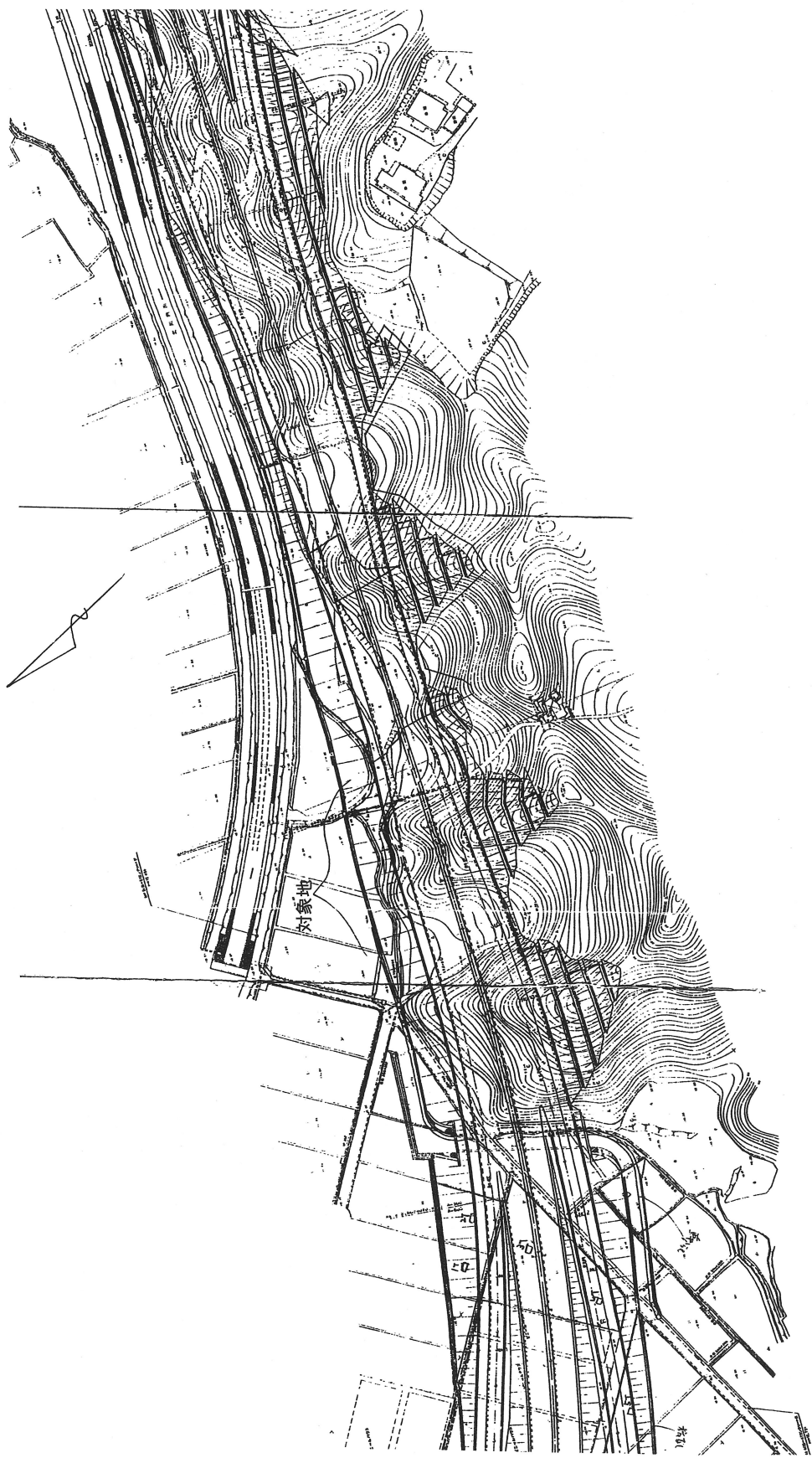


图6 山ノ城跡図面

写真 3



調査地全景



谷部のトレンチ完掘状況



尾根上部より低地を望む



尾根部伐採作業の状況

4. 一般国道10号都城道路（平峰遺跡・中原第3遺跡隣接地）

- 1 調査期間 平成18年5月31日(水)～6月1日(木)（中原第3遺跡隣接地）
平成18年10月25日(水)～27日(金)、11月1日(水)～2日(木)（平峰遺跡）
- 2 調査地点 都城市平塚町
- 3 調査者 教育庁文化財課 飯田博之
- 4 調査面積 365㎡（中原第3遺跡隣接地）、1,327㎡（平峰遺跡）

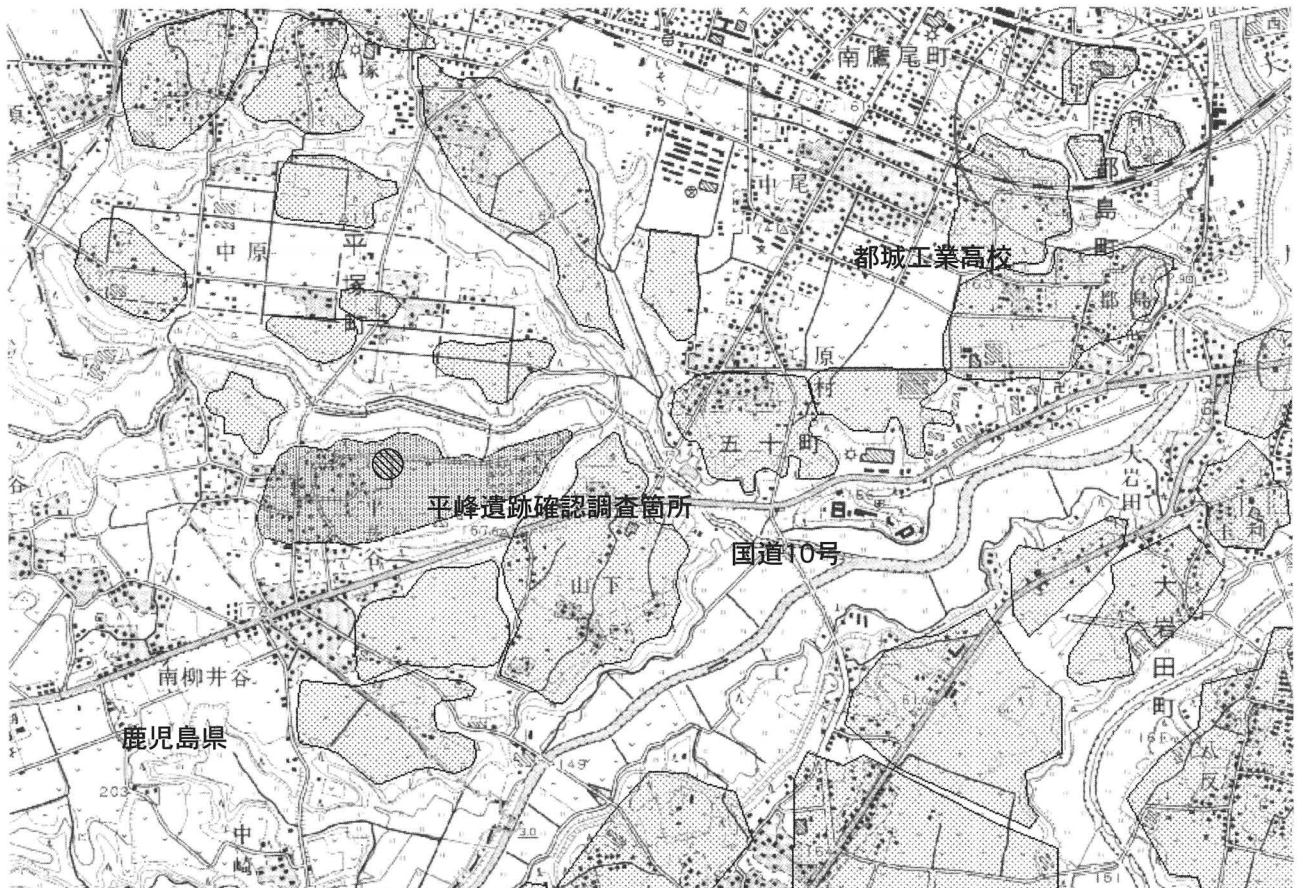


図7 調査地位置図

5 調査の結果

(1) 中原第3遺跡隣接地

今回の調査は、平成18年1月に実施した地点について補足・追加の調査である。

調査は重機を使用して、8本のトレンチを掘り下げた。御池ボラとアカホヤ層上面で遺構等の検出を行った結果、土坑を1基検出しただけであった。

調査の結果、土坑を1基検出したものの、他の遺構の検出がないこと、遺物が非常に希薄な分布のため、事前の発掘調査は必要ないと判断した。

(2) 平峰遺跡

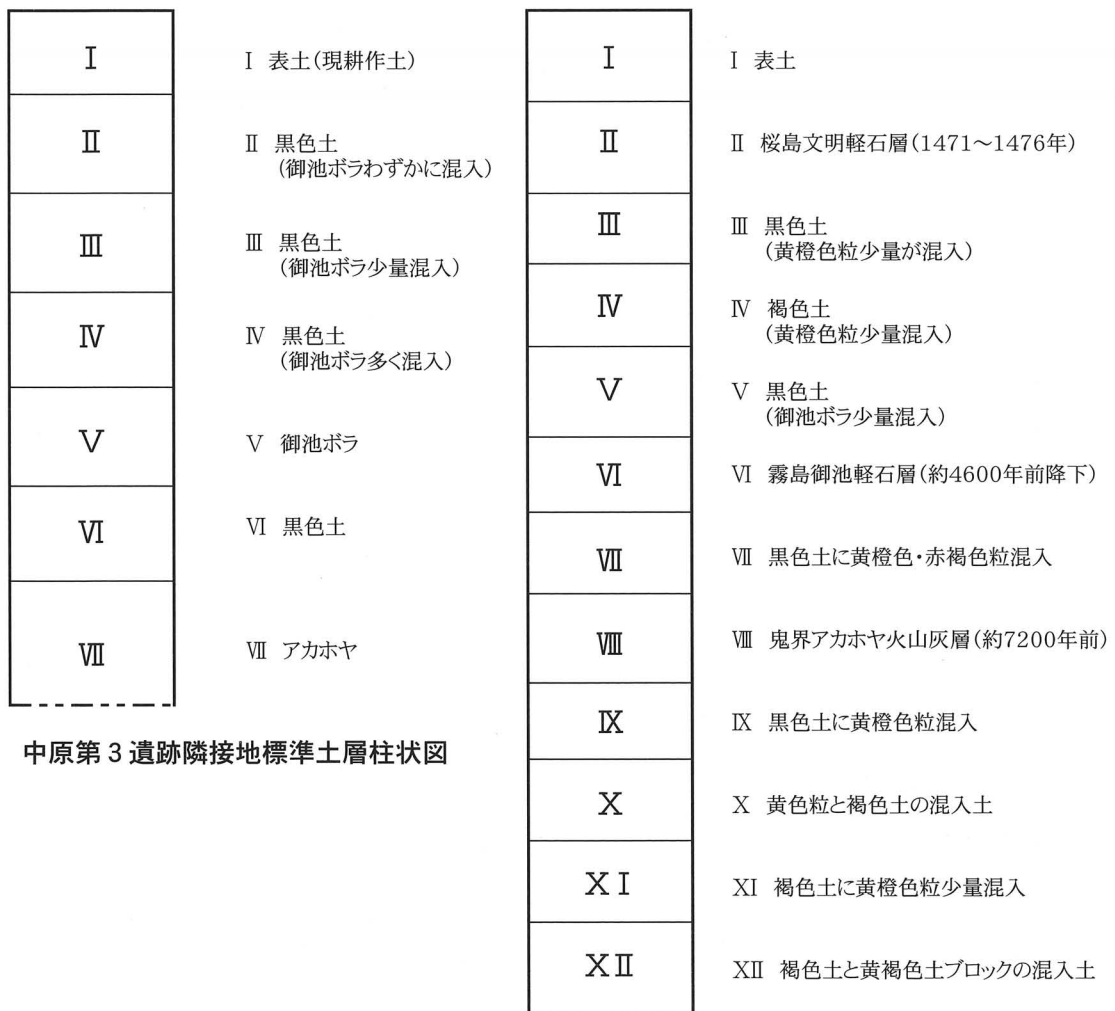
今回の調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地「平峰遺跡」の内容把握を目的としている。

調査は、重機を使用して、用地買収終了地にトレンチを設定して掘り下げていく方法をとった。トレンチ数は大小合わせて8本。土器や石器などの遺物を含む層、住居跡等の遺構の有無、さらに、それらがどの範囲に広がるのかを確認した。さらに、霧島御池軽石層（通称御池ボラ層）より下層にも土器や石器等の出土する層があるのか部分的に人力により掘り下げを行った。

調査の結果、御池ボラ層より上の層に土器が出土する層が3層あることが確認された。（別添土層図参照）また、竪穴住居跡と考えられる遺構が6軒、溝状の遺構が1条、また、トレンチ全体に柱穴が分布し、弥生～古墳時代にかけての集落遺跡であることが判明した。

今回の調査により、遺跡が未買収地にまで広がることが予想されるため、本発掘調査が必要な範囲は、御池ボラ層の面までは、遺跡全体の19,600㎡が対象となる。また、御池ボラより下層については、未買収地の引き渡しを終了した段階で再度確認調査を実施し、結論を出したい。

図8



中原第3遺跡隣接地標準土層柱状図

平峰遺跡標準土層柱状図

写真 4



平峰遺跡（調査前の状況：北側方向）



1 トレンチ（手前の黒い部分は溝状遺構）

写真5



1 トレンチ中央付近の竪穴住居跡



下層の状況

5. 県営農地保全整備事業第3秋山地区（箒ノ下遺跡）

- 1 調査期間 平成18年7月26日(水)、27日(木)
- 2 調査地点 串間市大字北方（箒ノ下遺跡）
- 3 調査者 教育庁文化財課 飯田博之
- 4 調査面積 60m²



図9 箒ノ下遺跡調査位置図

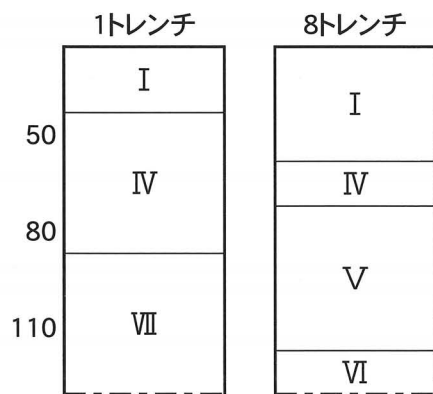
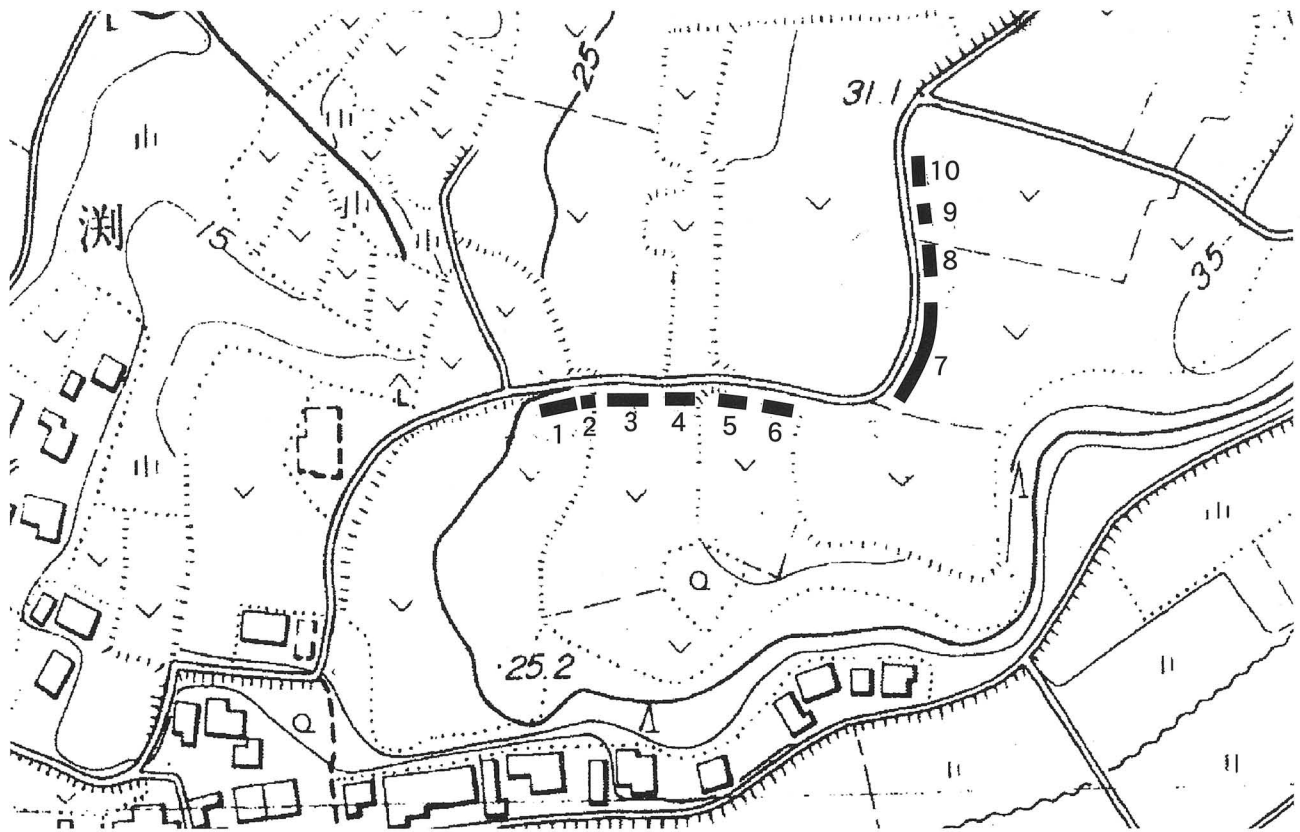
5 調査結果

今回の調査は水兼農道建設予定地の畑で実施した。※農道横の畑

トレンチは10本設定して、重機により掘り下げた。1～6トレンチでは、土地開墾時の造成が著しく、トレンチ断面に攪乱による客土が見られ、削平された痕跡等が確認できた。

7～10トレンチについては、アカホヤ火山灰層が堆積しており、柱穴や住居跡と考えられる遺構が確認された。

調査の結果、1～6トレンチ付近は遺構や遺物は確認されなかったので事前の発掘調査は必要ない。7～10トレンチ付近については、遺構や遺物が確認されたので、今後は施工方法等について事前の発掘調査が必要か否か協議を実施していく必要がある。



- I 表土
- II 客土
- III 黒褐色土
- IV 褐色土
- V 黒色土
- VI アカホヤ
- VII 黄褐色土 (AT混入)
- VIII 暗黄褐色砂質土
- IX 黄色砂質土

図10 トレンチ配置図及び基本層序図

写真6 作業風景

6. 県営一般農道整備事業下大河平4期地区 (畝倉第1遺跡・愛染院遺跡)

- 1 調査期間 平成18年8月21日(月)～22日(火)・24日(木)
- 2 調査地点 えびの市大字大河平字畝倉 (畝倉第1遺跡)
えびの市大字原田字愛染院 (愛染院遺跡)
- 3 調査者 教育庁文化財課 飯田博之
- 4 調査面積 260m²

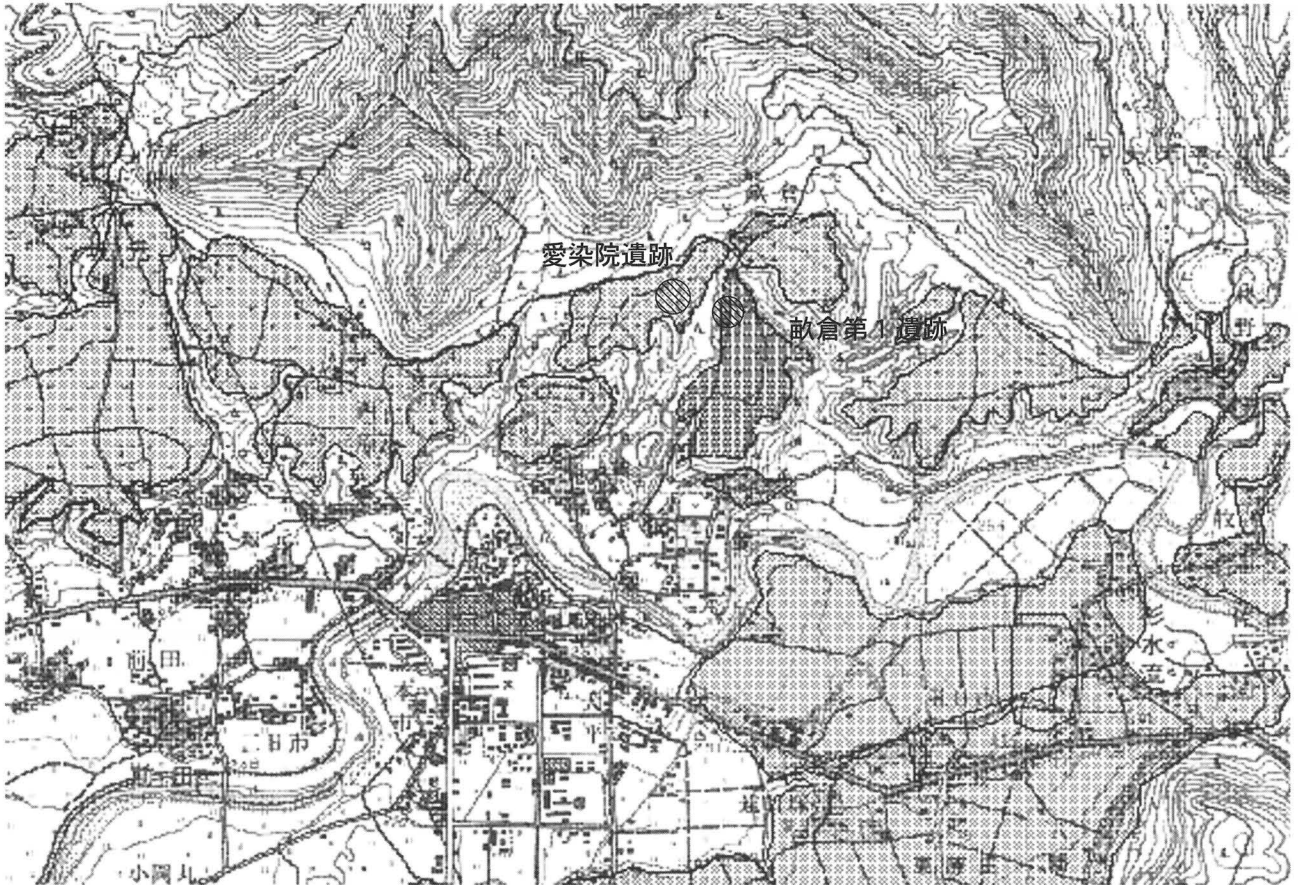


図11 調査地位置図

5 調査結果

調査は畝倉第1遺跡から開始した。長めのトレンチを5本設定して重機により掘り下げ、人力により精査を行った。

その結果、畝倉第1遺跡は、畑の耕作等の痕跡により攪乱を受けている部分が多く、遺物や遺構もなく、工事対象地の本発掘調査を実施する必要はない。

また、愛染院遺跡についても、遺構・遺物の検出がなく、工事対象地の本発掘調査は必要ない。

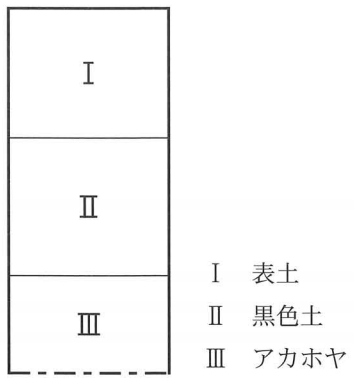
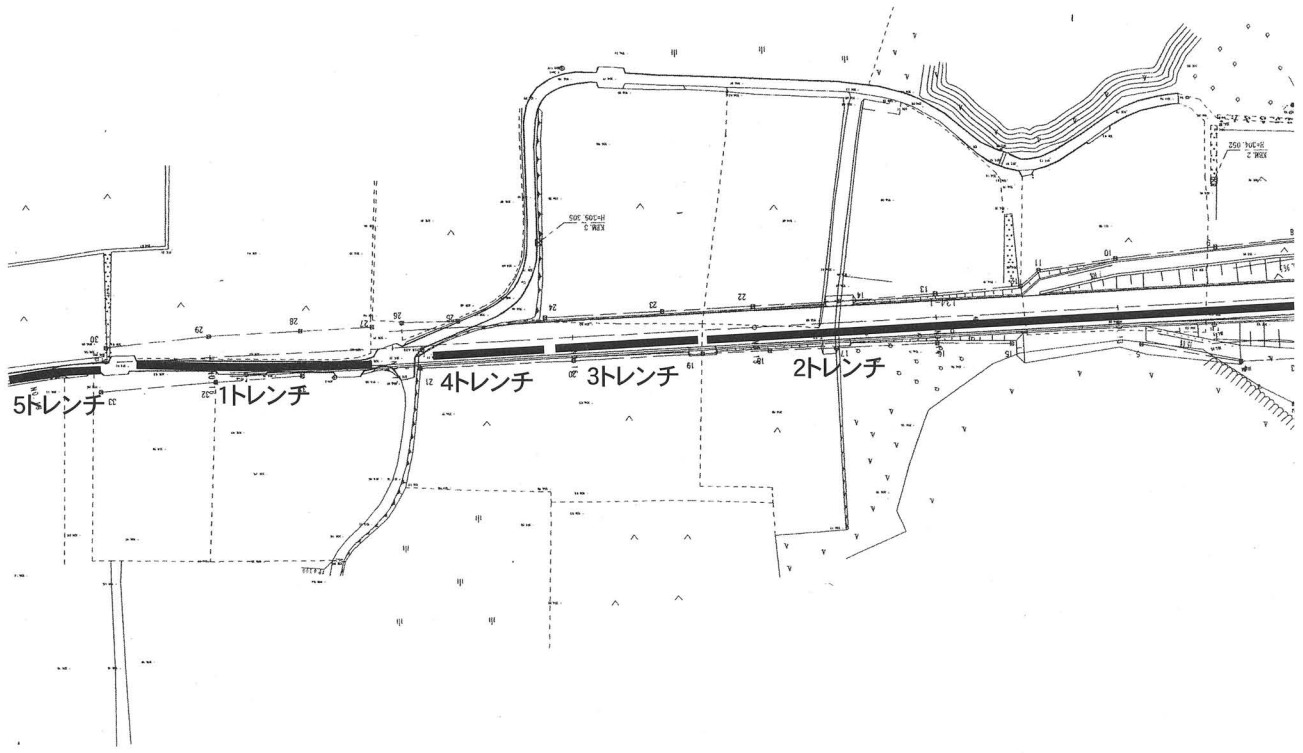
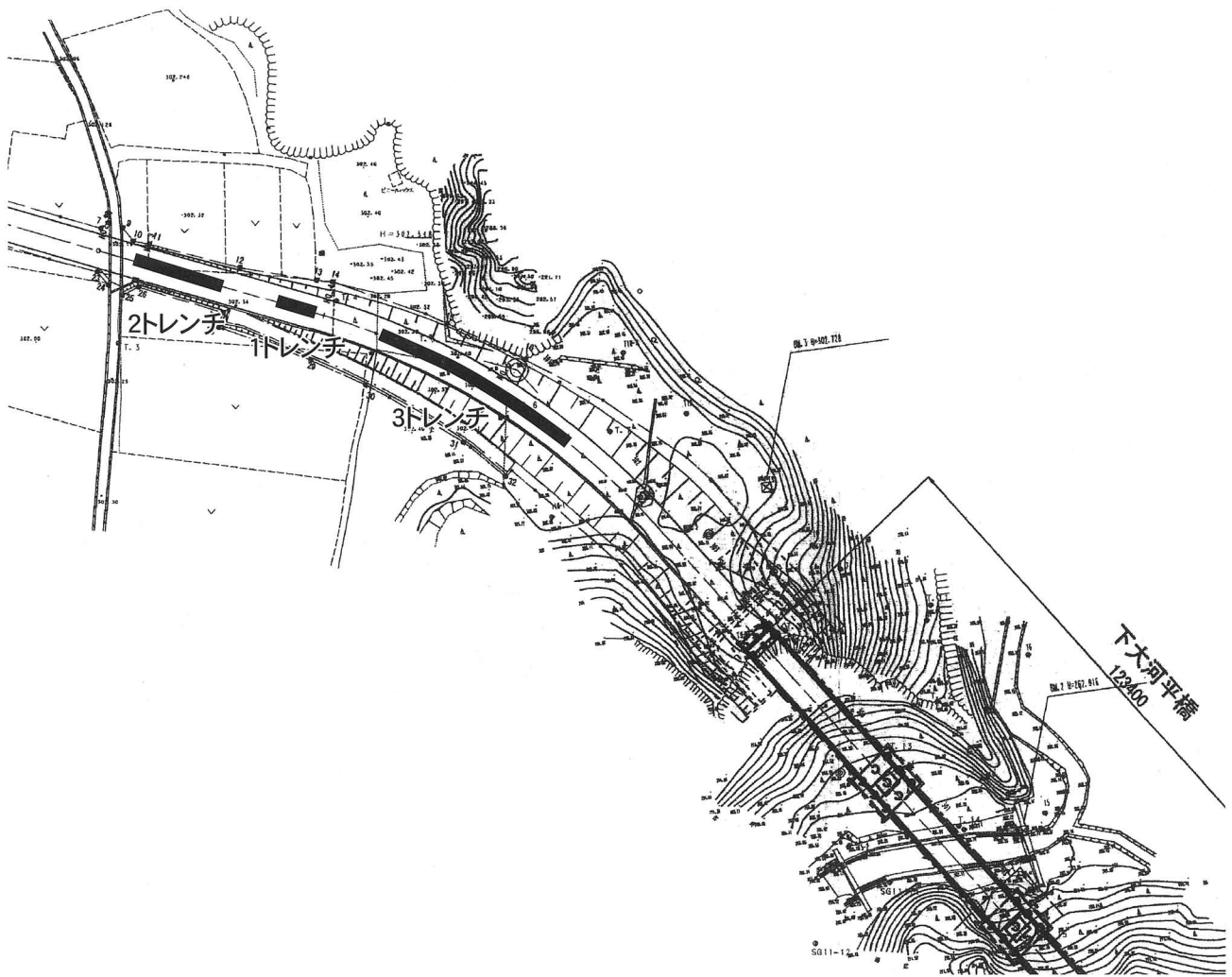


図12 畝倉第1遺跡トレンチ配置図及び基本層序図



写真7 畝倉第1遺跡第4トレンチ作業風



I	I 表土
II	II 黒色土
III	III アカホヤ
IV	IV 黒褐色土
V	V 茶褐色土
VI	VI 黄褐色土
VII	VII 黄褐色土・黒褐色土の混土層

図13 愛染院遺跡トレンチ配置図及び基本層序図

7. 一般県道高鍋美々津線(坂本工区) 地方道路交付金事業(持田遺跡隣接地)

- 1 調査期間 平成18年12月4日(月)、5日(火)
- 2 調査地点 高鍋町大字持田字東光寺(持田遺跡隣接地)
- 3 調査者 県埋蔵文化財センター 主査 和田理啓
- 4 調査面積 110m²

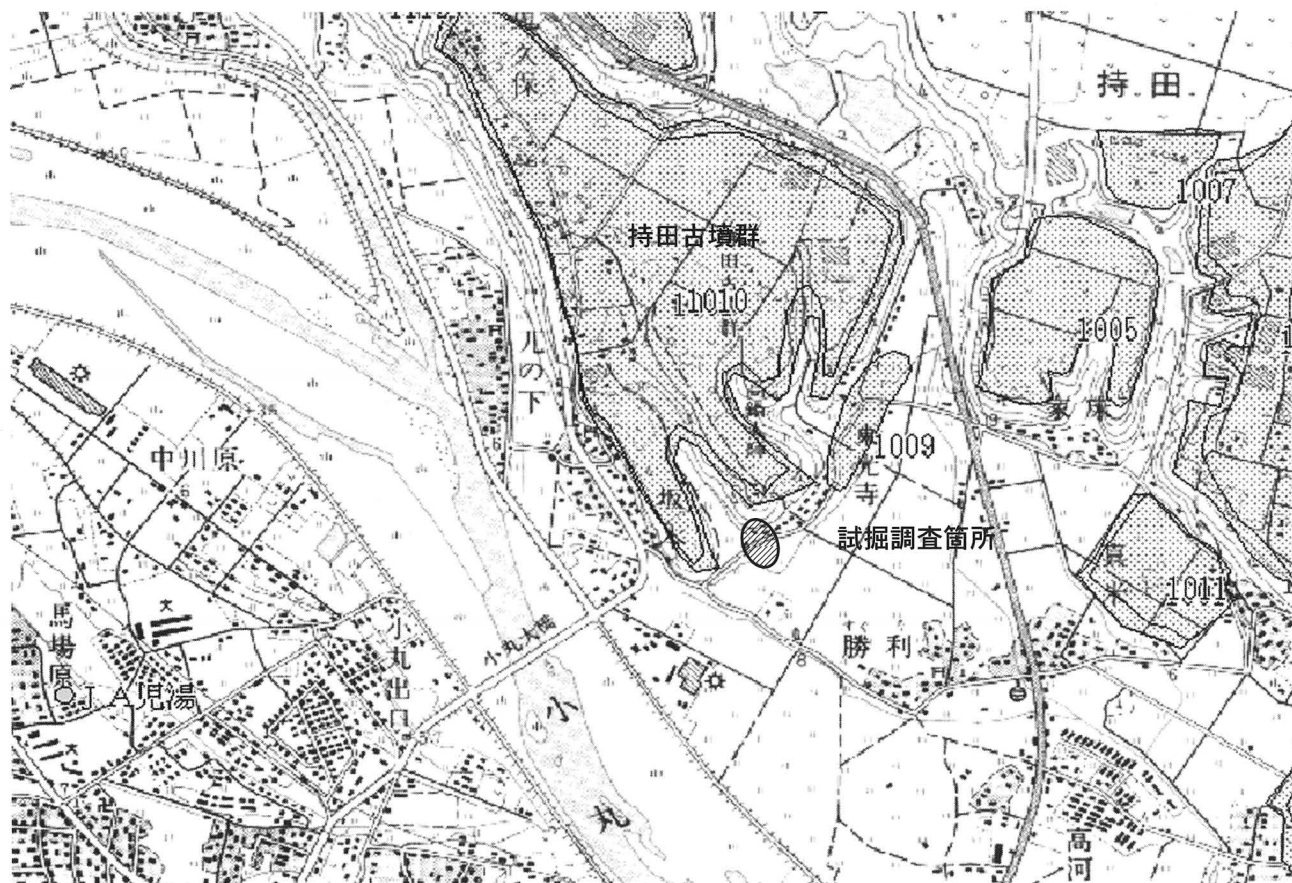


図14 調査地位置図

5 調査の結果

調査は、人力により1m×1mのトレンチ(試掘坑)を11箇所設け精査を行った。調査の後、トレンチは重機により十分な填圧をかけ埋め戻しを行っている。

調査の結果、4トレンチと5、6、9各トレンチの水田床土から土器の小片が数点出土している。土器片はいずれも小さく、また、脆弱化しており時代比定も困難であった。調査の結果、各トレンチで確認された遺物は、別の遺跡からの流れ込みで、その地に以前より埋蔵されていたものではない、と思われる。よって、今回の調査範囲での本発掘調査の必要性はないと判断した。

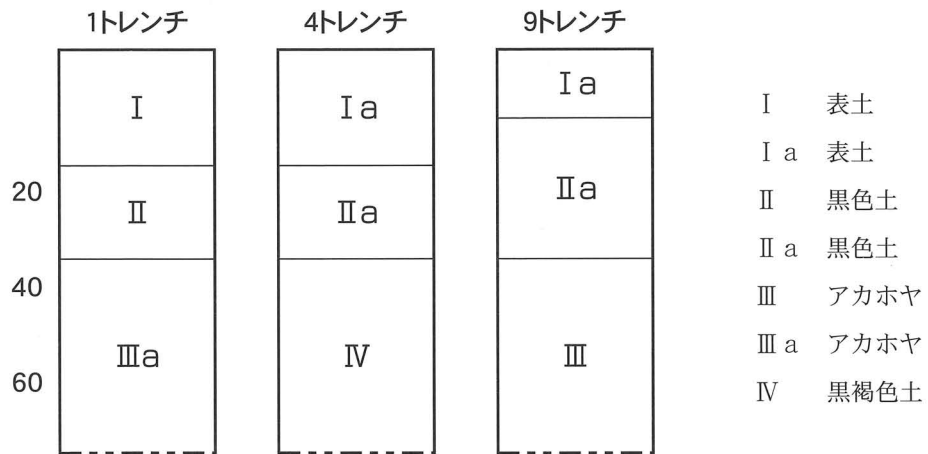
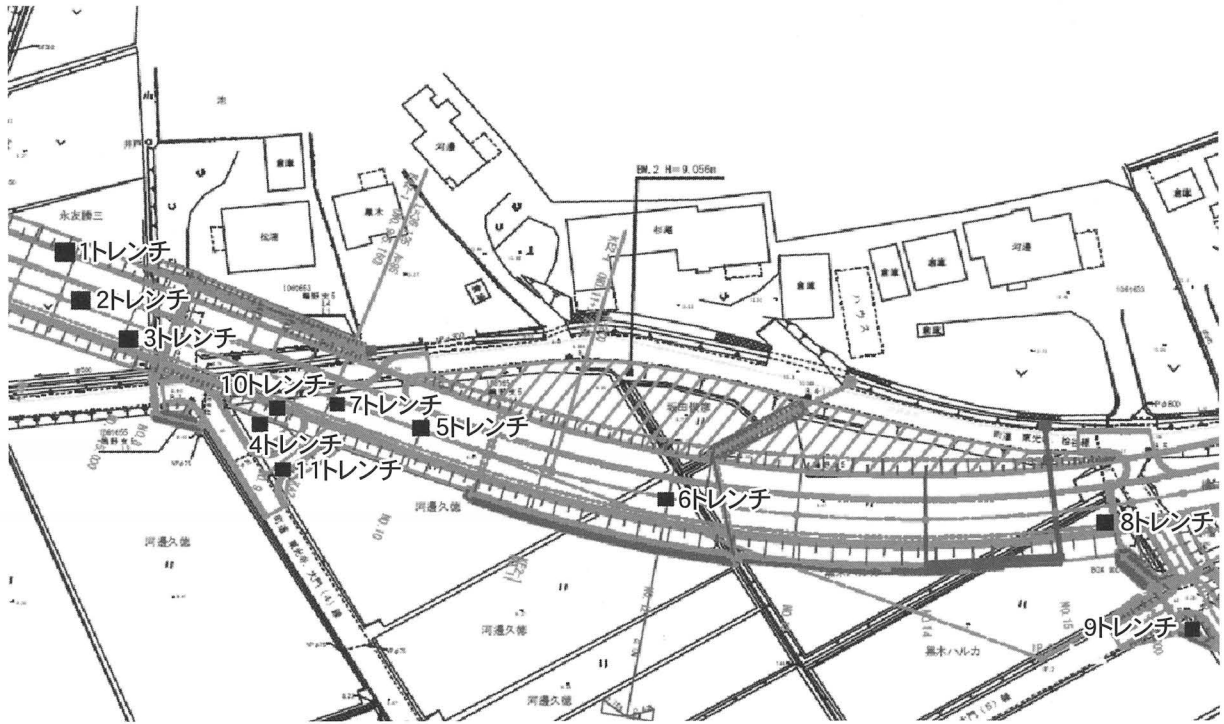


図15 トレンチ配置図及び基本層序図

8. 県営農地保全整備事業 上野田原地区（野田原遺跡）

- 1 調査期間 平成18年12月27日(水)・28日(木)
- 2 調査地点 川南町大字川南字上野田原
- 3 調査者 教育庁文化財課 主査 吉本正典
- 4 調査面積 40m²

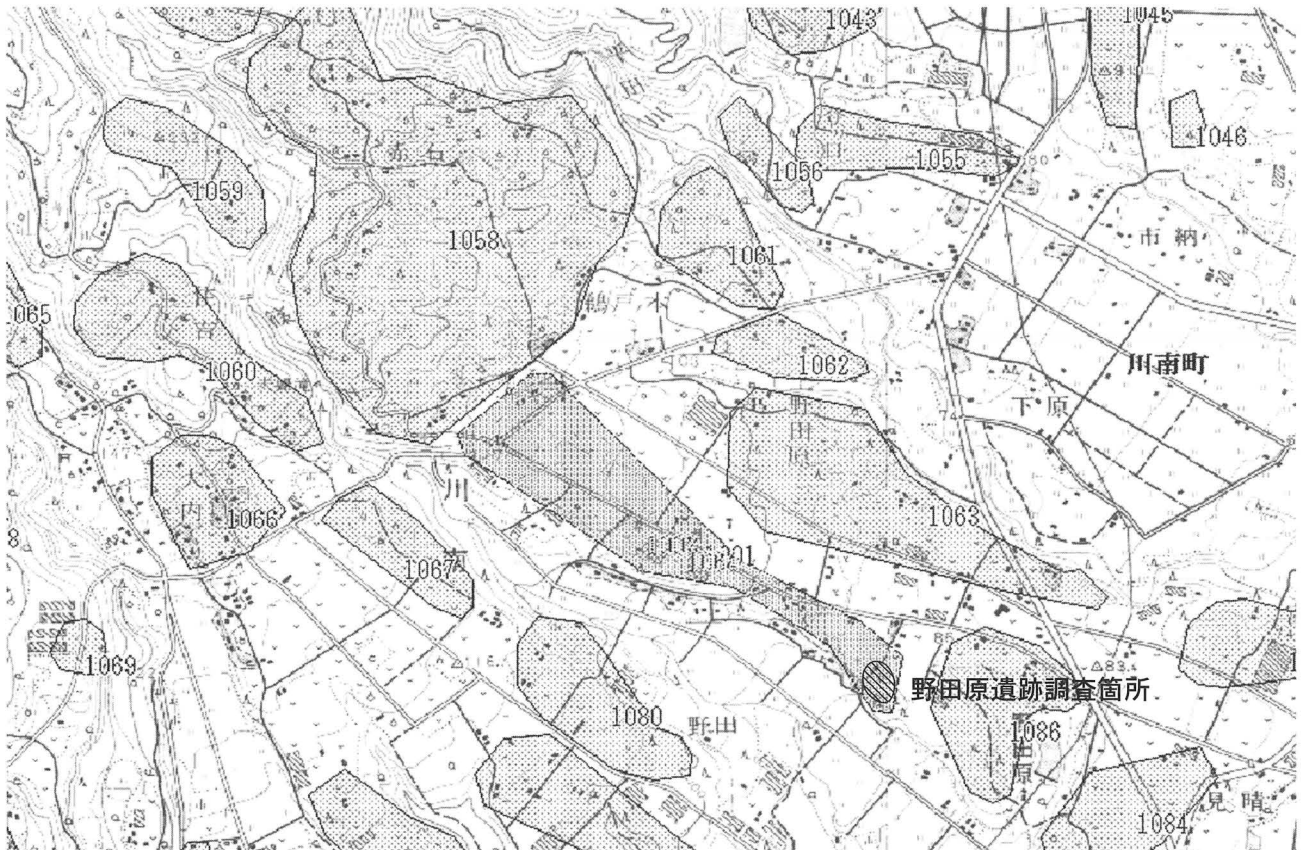


図16 調査地位置図

5 調査の結果

標記事業に伴う農道の工事予定地には、周知の野田原遺跡が一部含まれており、工事による影響を把握するため確認調査を行った。

予定路線は、台地端部から低地に下る線形となっている。路線に沿って幅約2mのトレンチを5箇所設定し、重機で表土を除去した後に人力で掘り下げを行った。

1トレンチは若干の攪乱土坑は見られたものの、基本層が良好な状態で認められた。トレンチの南端近くにて、Ⅲ層（アカホヤ火山灰層）上面で黒色土埋土の遺構が検出された。方形の竪穴住居跡の隅角部と考えられる。出土遺物は土器の小破片のみで時期は不詳だが、弥生時代から古墳時代の所産である可能性が高い。また北側で深掘りを行った結果、Ⅴ層（褐色土）上面で礫の集積箇所が認められ、石錘が1点出土した。付近に集石遺構が存在する可能性がある。

2 トレンチでは層が南に向かってわずかに傾斜をはじめる。倒木痕と見られる箇所があるが、遺構等は確認されなかった。Ⅱ層（黒色土）中より土器の小破片が数点出土している。

3 トレンチは黒色土の落ち込みが見られたが性格は不明。あるいは層の傾斜によるものかも知れない。Ⅱ層中より土器の小破片が数点出土している。

4 トレンチは、基本層は確認できるものの、より傾斜が急となり、アカホヤ火山灰層も不安定となる。遺物は土器の小破片が少量出土している。

5 トレンチは地表下約30cmの深さで黄褐色砂質土が確認され、以下この層が続く。遺物等は確認されなかった。以上の結果から、今回の対象範囲内の平坦地部には、アカホヤ層を挟んだ上下に文化層が遺存しているものと推定される。



図17 野田原遺跡基本層序図

写真 8



調査地全景

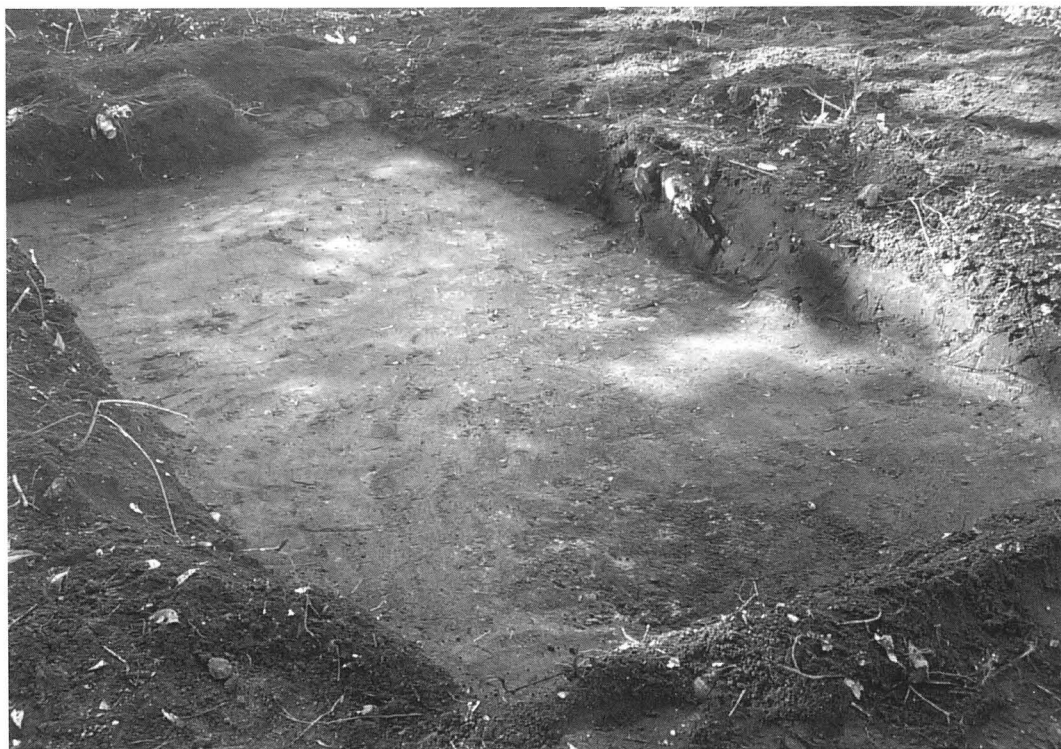


1 トレンチ 遺構検出状況

写真9



1 トレンチ アカホヤ火山灰層下位（縄文時代早期面）の状況



2 トレンチ 完掘状況

9. 国道327号日向バイパス 地域連携推進事業 (秋留遺跡周辺地)

- 1 調査期間 平成18年11月15日 (水) ・16日 (木)
- 2 調査地点 日向市大字財光寺
- 3 調査者 県埋蔵文化財センター 主査 和田理啓
- 4 調査面積 78m²

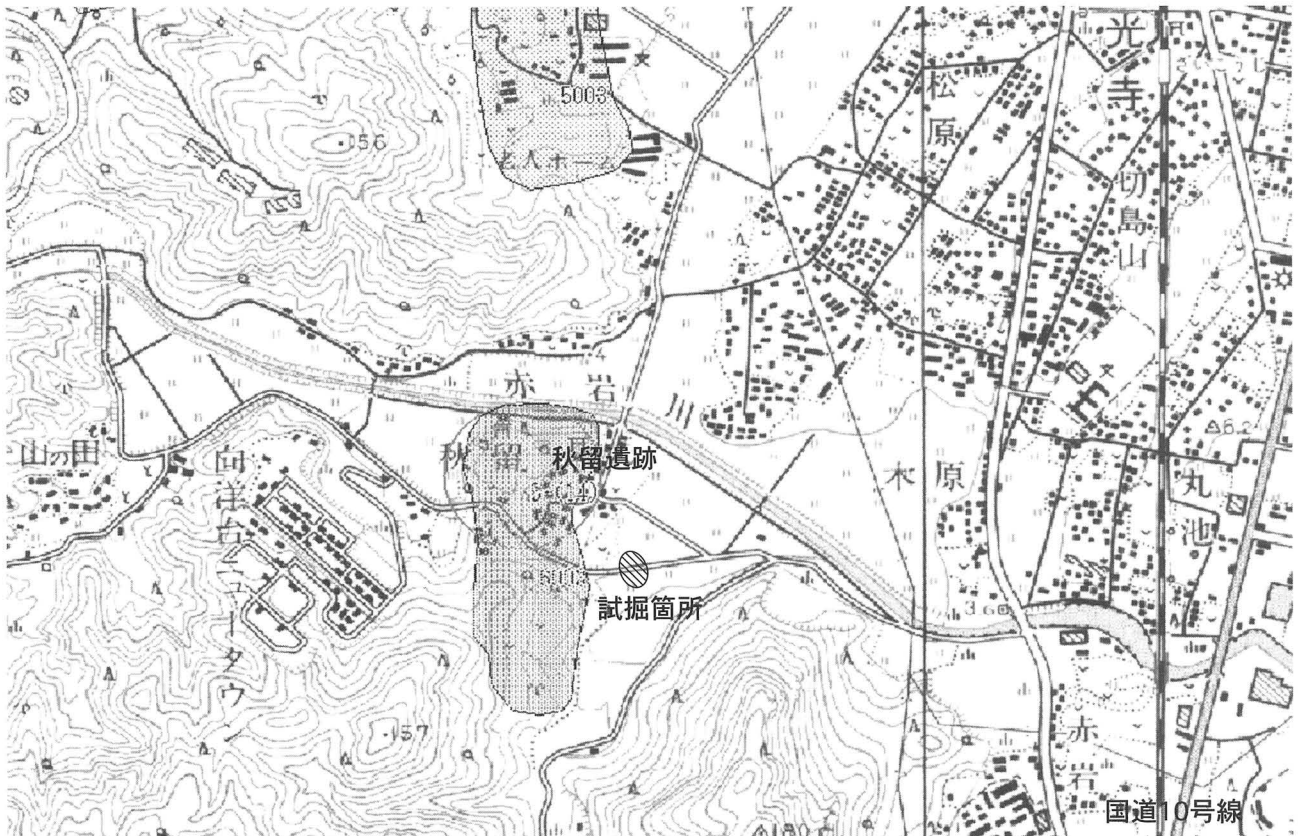


図18 調査地位置図

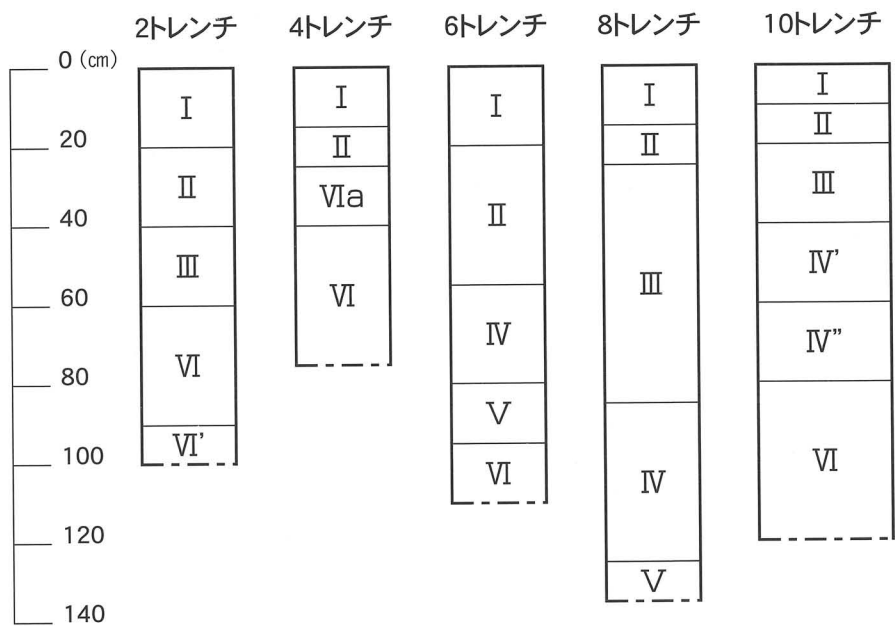
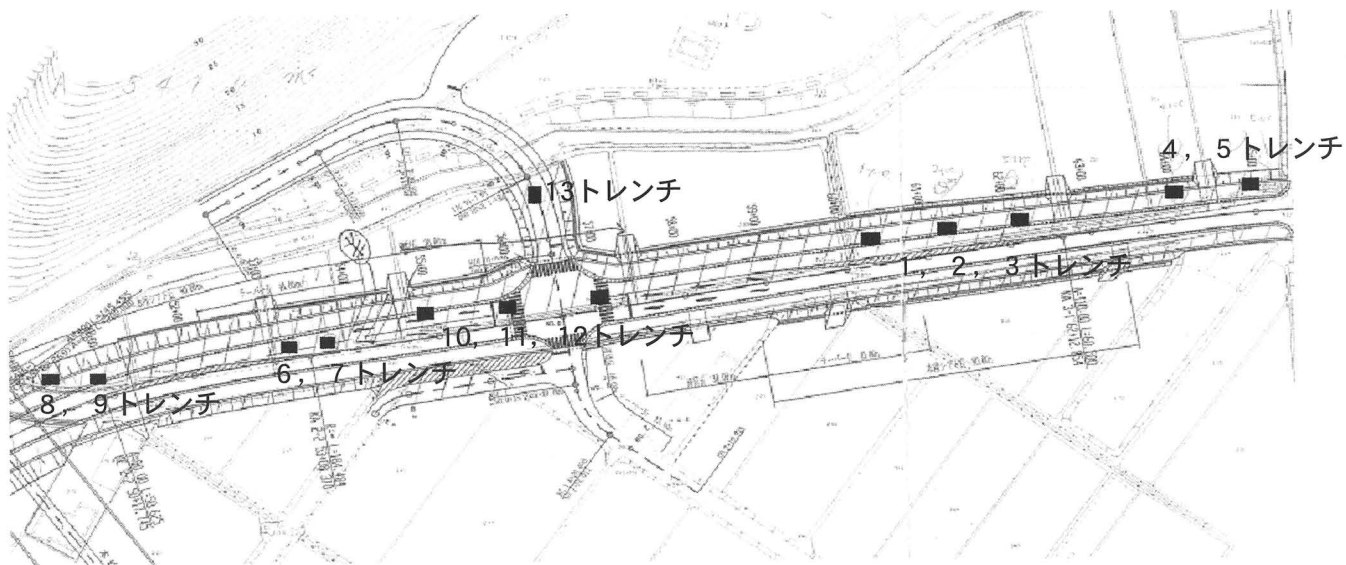
5 調査の結果

調査は、重機により3m×2mのトレンチ（試掘坑）を13箇所設け、人力により精査を行った。調査の後、トレンチは重機により十分な填圧をかけ埋め戻しを行っている。

トレンチを設けた箇所は、第2図に示すとおりである。また、各トレンチの土層については第3図に示した。

調査の結果、各トレンチから遺物の出土は全くみられなかった。遺構については、7、9、10、11トレンチで、畦畔や旧耕作面と思われる土層の乱れが確認できたが、その時期等を判断することは、これらのデータだけでは難しい。一方、地元住民の話から、これらの畦畔や旧耕作面は、現代まで耕作し続けられたものと同一である可能性が高いようである。

以上の結果から、当該地での発掘調査は必要ないと判断した。



- IV b 暗褐色粗砂(シルト質)
(ローリングを受けている。旧耕作土か)
- V 暗褐色粗砂(シルト質)
(有機物・流木等を多く含む泥炭層)
- VI 暗青灰色砂(洪水砂か)
- VI a 青灰色砂(洪水砂か)

- IV b 暗褐色粗砂(シルト質)
(ローリングを受けている。旧耕作土か)
- V 暗褐色粗砂(シルト質)
(有機物・流木等を多く含む泥炭層)
- VI 暗青灰色砂(洪水砂か)
- VI a 青灰色砂(洪水砂か)

図19 トレンチ配置図及び基本層序図

10. 主要地方道竹田・五ヶ所線(五ヶ所工区) 地方特定道路

- 1 調査期間 平成18年8月2日(火)
- 2 調査場所 西白杵郡高千穂町大字五ヶ所
- 3 調査者 教育庁文化財課 柳田晴子
- 4 調査面積 実掘約60㎡

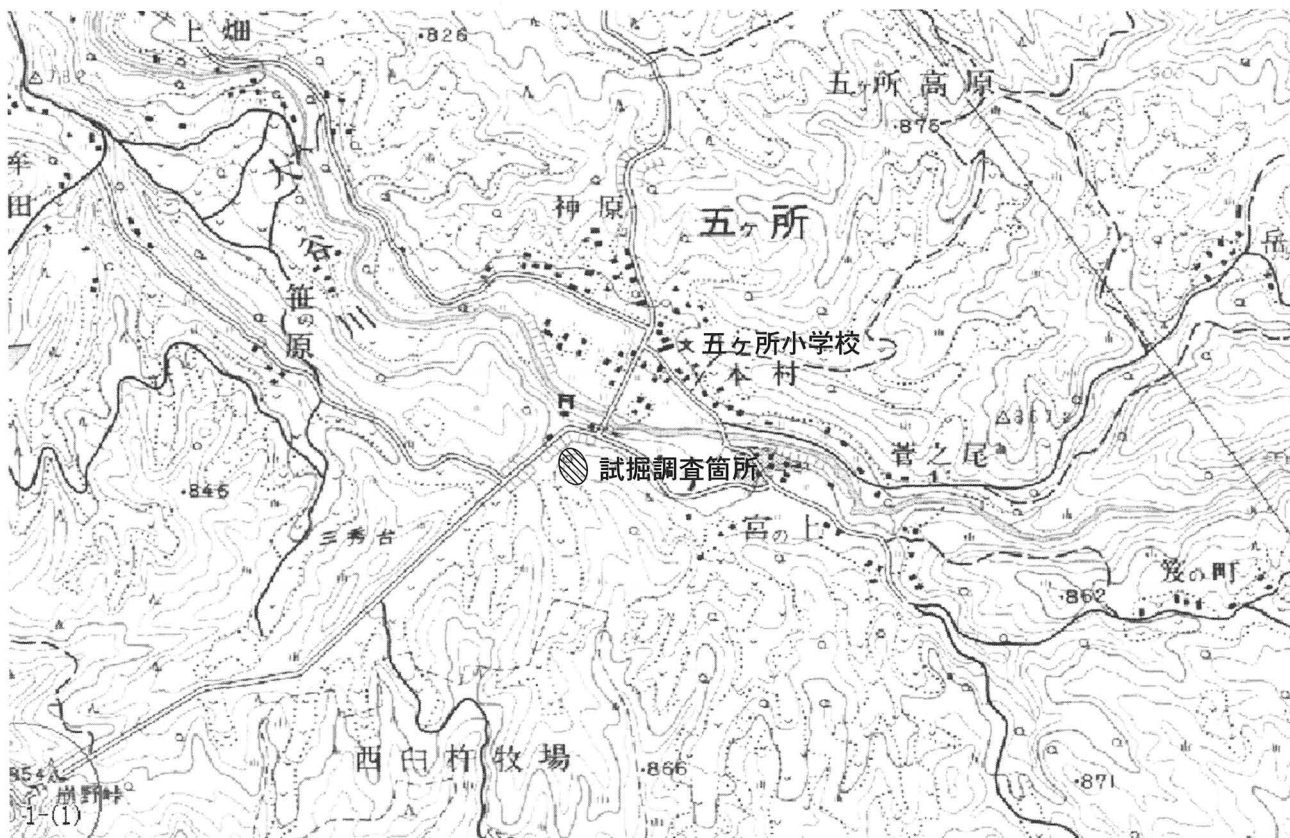


図20 調査地位置図

5 調査の結果

本試掘調査は、竹田・五ヶ所線(五ヶ所工区)道路工事に伴い実施した。対象地は地形的なもののから遺跡の可能性が高いためである。

調査は対象地内に5本のトレンチ(縦7～8m×横2m)を設定し、重機及び手掘りで掘り下げを行った。Ⅱ層上面まで重機で下げ、その後人力で掘り下げ・精査を行った。各トレンチからの出土遺物はなく、遺構は第二トレンチより近現代の時期と思われる溝が検出された。

調査の結果、検出された溝も比較的新しい時期であり、遺物もなく、事前の発掘調査は必要ないと判断した。

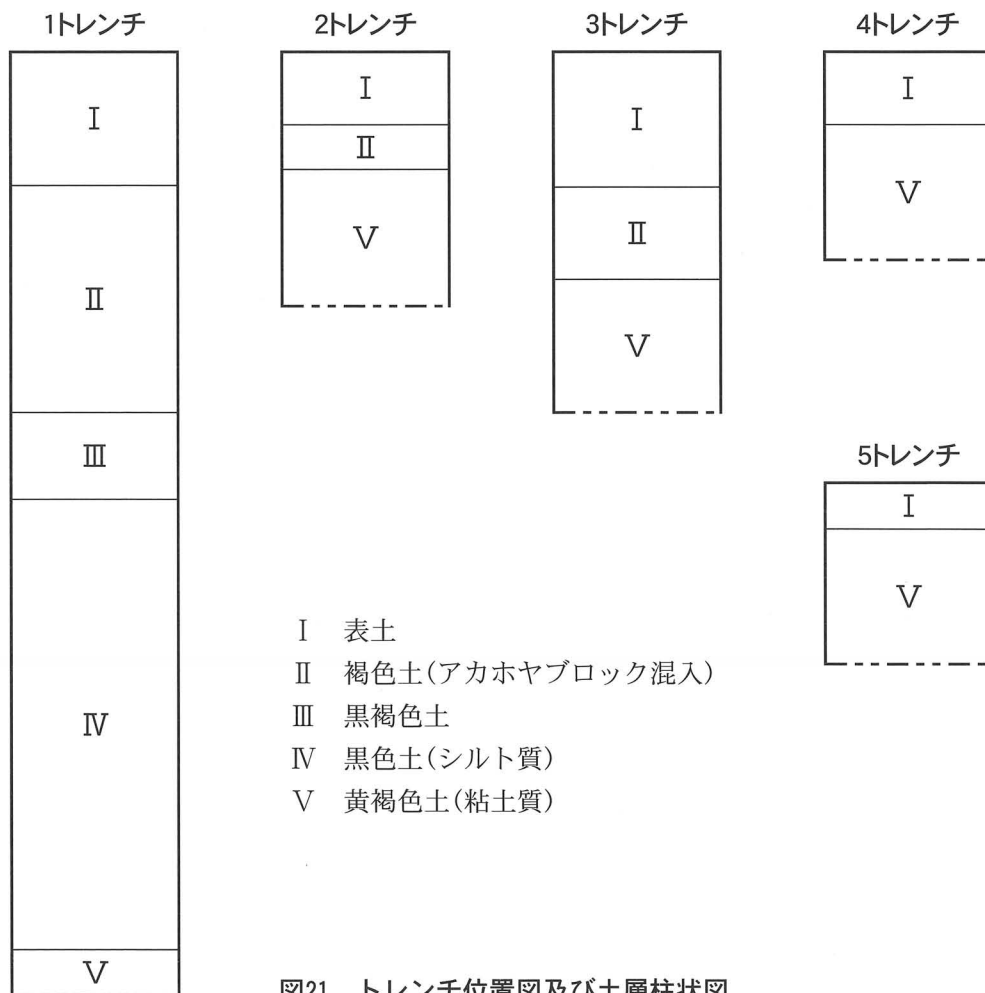
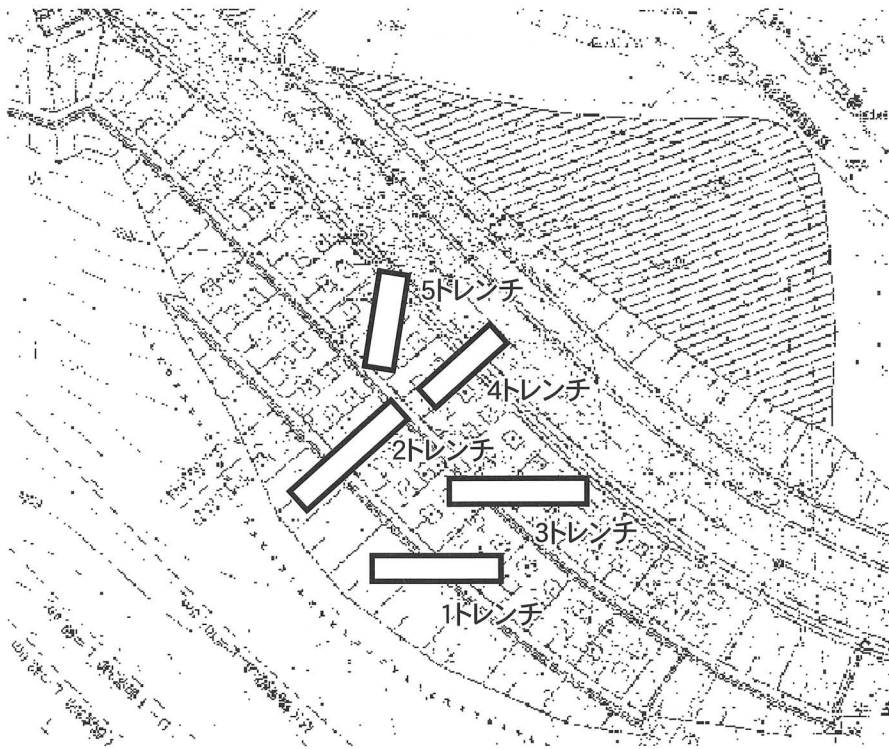


図21 トレンチ位置図及び土層柱状図

写真10



調査対象地（手前）



作業風景

写真11



重機による掘削



トレンチ掘削状況

報告書抄録

書名	平成18年度県内遺跡発掘調査概要報告書
所収遺跡名	宮崎市・跡江 ^{あとえ} 地区遺跡 宮崎市・山ノ城 ^{やまのじょう} 跡 都城市・中原 ^{なかはら} 第3遺跡隣接地, 平峰遺跡 串間市・箒 ^{ほうき} ノ下遺跡 えびの市・畝倉 ^{せくら} 第1遺跡・愛染院 ^{あいぜんいん} 遺跡 川南町・野田原 ^{のだばら} 遺跡
調査原因	農業基盤整備事業等の開発事業に伴う試掘・確認調査
発行機関	宮崎県教育委員会
発行年月日	2007年(平成19年)3月28日

平成18年度県内遺跡発掘調査概要報告書

2007年3月

編集：宮崎県教育庁文化財課

発行：宮崎県教育委員会

宮崎市橘通東1丁目9番10号

TEL0985-26-7251

印刷：宮崎製版印刷合資会社